

20 世紀前期中国マルクス主義術語の形成に関する研究  
—日文中訳資料を中心に—  
The formation of Chinese Marx Terminology in early 20th century :  
Focus on Japanese-Chinese Translation Data

孫 宇雷、田中 寛  
SUN Yulei ; TANAKA Hiroshi

**要旨**：本稿は、20 世紀前期のマルクス主義に関する術語形成について、主として翻訳の視点から考察した。清末民国初には多くの社会主義文献が中国に紹介されたが、その実態はまだ詳細には検証されていない。本稿では『近世社会主義』、『近世社会主義評論』、『社会主義』、『社会主義神髓』の原本と中国語訳本を考察資料として、マルクス術語の形成をデータによる解析を通じて考察した。結論として、日本語原本 1 → 日本語原本 2 → 中国語訳本 1 → 中国語訳本 2 のような形で、マルクス術語が定着していく過程が明らかにされた。

**キーワード** マルクス主義術語 伝統と革命 語彙形成 語彙環境 日文中訳

## 目次

1. はじめに
2. 先行研究
3. 調査方法及び研究内容
4. おわりに

### 1. はじめに

近年、術語形成の研究はひとつのブームを画している。マルクス主義術語の形成は、日中同形語及び和製漢語の借用に関する研究課題でもあり、Walfgang Lippert (2003) をはじめとして、数種の研究蓄積が観られる。一方、研究資料がすでに 100 年ほど経っていることから、今までの研究はまだ精確な研究結果であるとは判断できない。

郭 (1955) が指摘したように、中国のマルクス主義・思想は、20 世紀初頭から日本を経由、伝来されている。王 (2019) によれば、中国におけるマルクス主義・思想の伝来は、三つの時期において三つのルートからなっていると述べている。19 世紀末は、「欧州ルート」で、ヨーロッパで一大潮流となっていた国際運動について、中国から派遣された大使たちが日記文という形で記録していたものが顕著である。ついで 20 世紀初頭から、「日本ルート」として留日中国人学生が主幹した新聞、雑誌などによって、日本で刊行されていたマルクス主義文献が中国語に訳され、紹介されている。さらに、ソ連の十月革命から「ソビエトルート」の伝来も挙げられる。この三種のルートから、マルクス主義術語の形成が 20 世紀の研究資料から観察できる。

本稿は、20 世紀初頭の全訳資料の原本と中訳本を研究対象とし、マルクス主義術語の形成を検証してみることにはしたい。本稿の研究対象は表 1 のようである。

表1 本稿の研究対象

本名	近世社会主義	近世社会主義評論	社会主義	社会主義神髓
著者	福井準造	久松義典	村井知至	幸徳秋水
訳者	赵必振	杜士珍	翻译世界 / 罗大维 / 侯士馆	蜀魂 / 创生 / 马采 / 高劳 / 达实

以下では本稿は表1の四種の日本語原本と中国語訳本と対照させながら、コーパスによる計量的分析を導入し、マルクス主義術語の形成を考察してみたい。

## 2. 先行研究

中国のマルクス主義術語（以下、マルクス術語とする）を研究する先行研究として、ドイツのWalfgang Lippert (2003) がよく知られている。W.Lippert (2003) は、和製漢語の研究、英和辞典などを背景とし、中国のマルクス主義術語を44個ほどあげて研究した。W.Lippert (2003) は、1903年から、日本からのマルクス主義の転入がヒットとなっていることを指摘している。1903年時点で、すでに借用されている和製漢語は表2のようにまとめられる。図1のように簡単にそれぞれの連続性を示してみる。

表2 1903年以前のマルクス術語形成（筆者作成）

1903年以前							
社会	社会的	资本主义	帝国主义	社会主义	共产主义	资本	资本家
封建制度	封建主义	阶级	阶级斗争	革命			
劳动	劳动力	权利	政权	政治经济学	私有财产	地主	
农民	贫农	中农	富农	权利	政权	人民	解放
反动	反动的	思想	理论	唯物论	唯物主义	形而上学	
生产关系	生产率	生产	生产资料	生产方式	生产力		

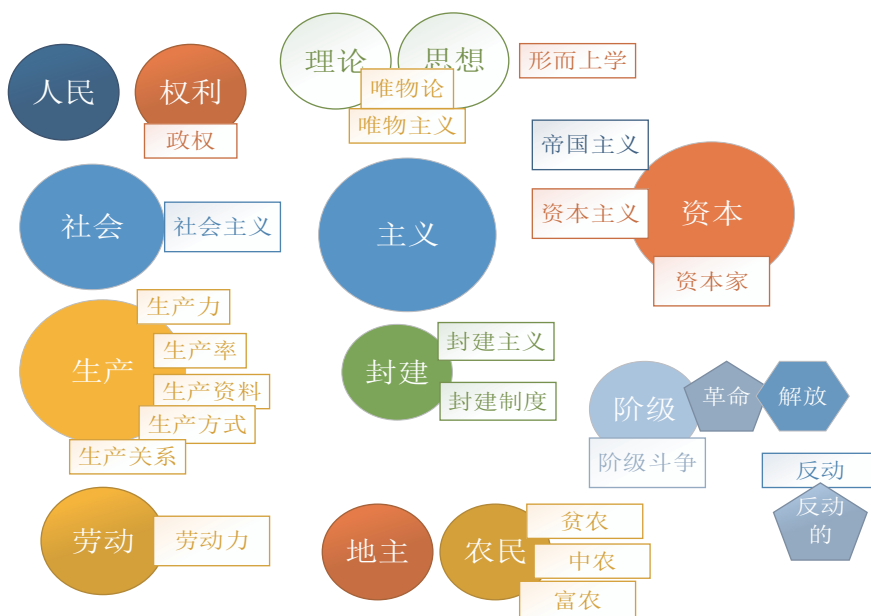


図1 1903年以前すでに借用しているマルクス術語の連続性

図1で示したように「社会」、「主義」、「資本」、「生産」、「思想」などをもとにマルクス術語の派生、連続性のある発展がみられる。表2のほか、W.Lippert (2003) は1903以降形成されたマルクス主義術語も取り上げて検討した。具体的には、矛盾、対立、対抗、不断革命、辩证法、价值、修正主義、改造、意識、意識形態、経済基礎、上层建筑、无产者、无产阶级、知识分子、实践という合計14個である。

W.Lippert (2003) の術語研究は辞書を背景として検討したが、本稿では表1の全訳資料を調査対象とし、使用回数の調査からマルクス術語形成の実態を考察する。

### 3. 調査方法および調査内容

表1に挙げた日文中訳の資料を、KWIC-FINDERに導入し、コーパスを作成する。コーパスに基づき、表2と表3に現れたマルクス主義術語の使用実態を調査する。

#### 3.1 『近世社会主義』、『近世社会主義評論』におけるマルクス術語の使用調査

『近世社会主義』と『近世社会主義評論』の原本と訳本においては、マルクス術語は表3、図2のような分布がみられる。

表3 『近世社会主義』 & 『近世社会主義評論』における使用回数調査

	近世社会主義 (1899)	近世社会主义 (1902-1903)	近世社会主義評論 (1900)	近世社会主义评论 (1903)
社会	2201	2461	720	261
社会主義	543	594	97	51
共産主義	33	41	7	18
革命	146	190	70	23
資本	315	359	242	25
資本家	108	116	102	6
帝国主義	0	0	0	0
封建主義	1	1	0	0
封建制度	0	0	6	2
階級	52	108	52	7
階級闘争	0	0	0	0
生産	312	314	10	11
生産資料	0	1	0	1
生産方式	0	0	0	0
生産力	10	10	2	0
生産関係	0	0	0	0
生産率	0	0	0	0
労働	8	1	1	0

	近世社会主義 (1899)	近世社会主义 (1902-1903)	近世社会主義評論 (1900)	近世社会主义评论 (1903)
勞働力	1	0	0	0
政治經濟学	0	0	0	0
私有財產	17	13	1	1
農民	5	9	15	4
貧農	0	0	0	0
中農	0	0	0	0
富農	0	0	0	0
地主	33	29	21	6
人民	120	152	34	13
權力	0	0	3	0
政權	0	0	1	0
解放	4	6	2	0
反動	8	10	2	1
思想	62	70	12	12
理論	6	17	7	4
唯物論	1	1	0	0
唯物主義	2	2	1	1
形而上学	0	0	0	0

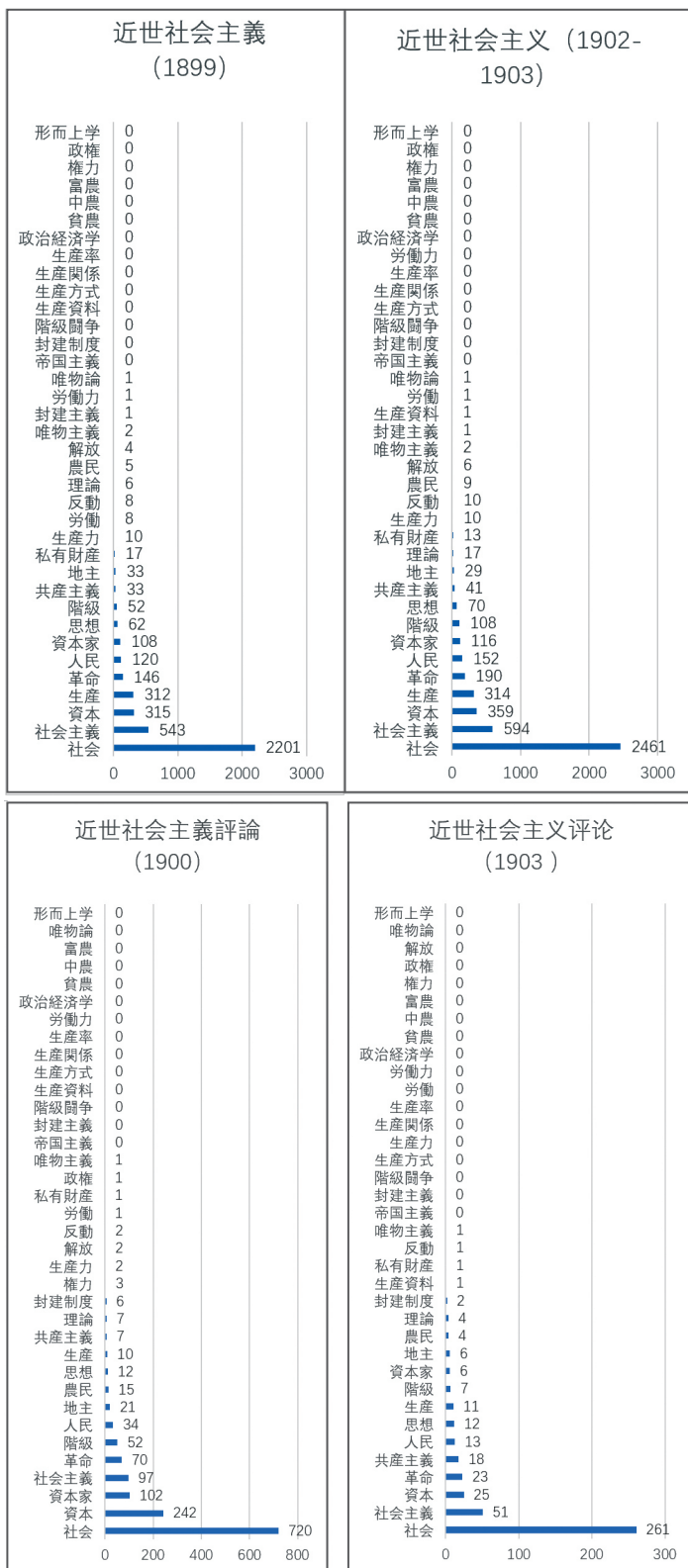


図2 『近世社会主義』(日・中) & 『近世社会主義評論』(日・中) におけるマルクス術語の使用調査

表3、図2に見るように、「社会」と「社会主義」がもっとも多く用いられている。その次は「生産」、「革命」、「資本」、「資本家」と「人民」などの術語である。一方、「帝国主義」、「階級闘争」、「生産方式」、「生産関係」、「生産率」、「政治経済学」、「貧農」、「中農」、「富農」、「唯物論」、「形而上学」の使用例は観られなかった。次に増減の変化を三つの局面（使用回数が増えた術語、減った術語、変わりがない術語）にわけて具体的にあらわれた術語を観察してみたい。

日文中訳の場合、『近世社会主義』で使用回数が増えた術語は「社会」、「社会主義」、「共産主義」、「革命」、「資本」、「資本家」、「階級」、「生産」、「生産資料」、「農民」、「人民」、「解放」、「反動」、「思想」、「理論」である。この中で、「社会」、「社会主義」、「革命」、「資本」、「階級」、「人民」が大幅に増えていることがわかる。これらの表現に対し、『近世社会主義』の原本から訳本を観察した結果、マルクス術語の使用回数が減った術語は、「労働」、「労働力」、「私有財産」、「地主」である。さらに、使用回数に変わりがない術語は、「封建主義」、「生産力」、「唯物論」、「唯物主義」である。『近世社会主義』の訳本では、訳者が自身の理解を踏まえ、注を多く付け加えたため、大幅にマルクス術語が増加したのも、訳者の関心が深い術語であることが推察される。

一方、『近世社会主義評論』では、使用回数が増えた術語は、「共産主義」、「生産」、「生産資料」であり、使用回数が減った術語は、「社会」、「社会主義」、「革命」、「資本」、「資本家」、「封建制度」、「階級」、「生産力」、「労働」、「農民」、「地主」、「人民」、「権力」、「政権」、「解放」、「反動」、「理論」である。使用回数には変わりなかった術語は、「私有財産」、「思想」、「唯物主義」である。『近世社会主義評論』も、直訳に加えて訳者の見解などが含まれている。訳者は「刪其繁，先译述之」（筆者訳：簡潔に訳している）と前もって説明していることも注目される。その一方で、「共産主義」、「生産」、「生産資料」などについて、詳しく説明を付けていることも分かった。時代を経るにつれて、関心の動向が語彙の増減にも反映されていることがわかる。

### 3.2 日本語原本におけるマルクス術語の使用

3.1 で取り上げた原本は、中訳文が一種だけあるが、『社会主義』と『社会主義神髄』には、複数の中訳本があることから、日中対照を展開する前に、『近世社会主義』と『近世社会主義評論』を同一線上に取りあげ、マルクス術語の使用を観察して見る必要がある。次に日本原本におけるマルクス術語の使用調査、ならびにその使用の変遷をみてみたい。

表4 四つの日本語原本におけるマルクス術語の使用調査

マルクス術語	近世社会主義 (1899)	マルクス術語	社会主義 (1899)	マルクス術語	近世社会主義 評論 (1900)	マルクス術語	社会主義神髄 (1903)
社会	2201	資本家	38	資本家	102	資本家	62
社会主義	543	資本	56	資本	242	資本	102
資本	315	中農	0	中農	0	中農	0
生産	312	政治経済学	0	政治経済学	0	政治経済学	0
革命	146	政権	0	政権	1	政権	0
人民	120	形而上学	0	形而上学	0	形而上学	0
資本家	108	唯物主義	0	唯物主義	1	唯物主義	0
思想	62	唯物論	0	唯物論	0	唯物論	0
階級	52	思想	22	思想	12	思想	0

マルクス術語	近世社会主義 (1899)	マルクス術語	社会主義 (1899)	マルクス術語	近世社会主義 評論 (1900)	マルクス術語	社会主義神髓 (1903)
共産主義	33	私有財産	2	私有財産	1	私有財産	0
地主	33	生産資料	0	生産資料	0	生産資料	0
私有財産	17	生産率	0	生産率	0	生産率	0
生産力	10	生産力	0	生産力	2	生産力	7
労働	8	生産関係	0	生産関係	0	生産関係	0
反動	8	生産方式	0	生産方式	0	生産方式	0
理論	6	生産	6	生産	10	生産	136
農民	5	社会主義	104	社会主義	97	社会主義	76
解放	4	社会	400	社会	720	社会	267
唯物主義	2	人民	11	人民	34	人民	12
封建主義	1	権力	0	権力	3	権力	0
労働力	1	貧農	0	貧農	0	貧農	0
唯物論	1	農民	0	農民	15	農民	0
帝国主義	0	理論	0	理論	7	理論	1
封建制度	0	労働力	0	労働力	0	労働力	0
階級闘争	0	労働	2	労働	1	労働	17
生産資料	0	解放	0	解放	2	解放	3
生産方式	0	階級闘争	0	階級闘争	0	階級闘争	0
生産関係	0	階級	19	階級	52	階級	36
生産率	0	共産主義	0	共産主義	7	共産主義	2
政治経済学	0	革命	12	革命	70	革命	39
貧農	0	富農	0	富農	0	富農	0
中農	0	封建主義	0	封建主義	0	封建主義	1
富農	0	封建制度	1	封建制度	6	封建制度	0
権力	0	反動	1	反動	2	反動	0
政権	0	帝国主義	0	帝国主義	0	帝国主義	0
形而上学	0	地主	5	地主	21	地主	25

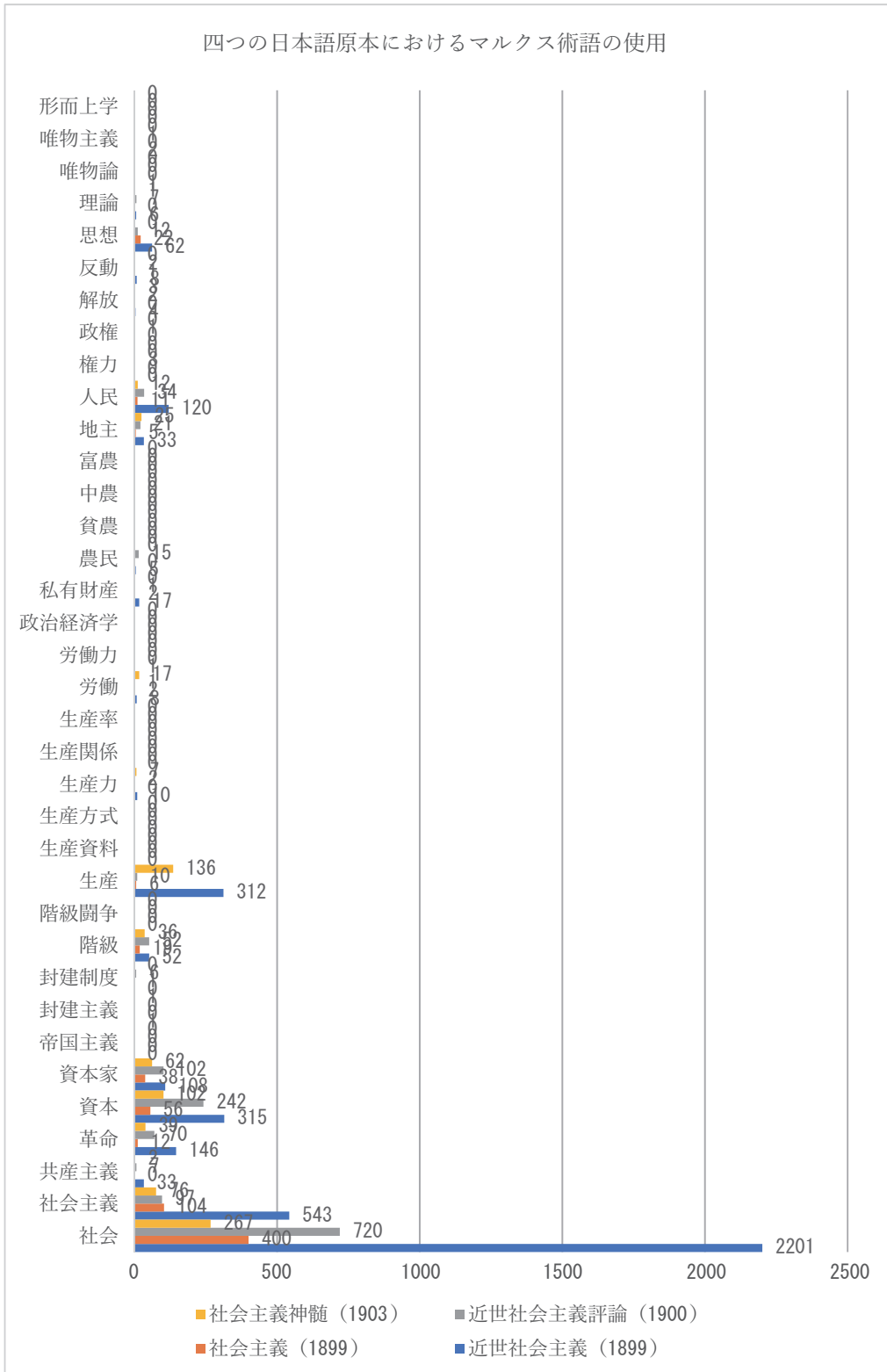


図3 四つの日本語原本におけるマルクス術語の使用



四つの原本は、1899年～1903年に出版されたが、マルクス術語の使用は、以下のような特徴が観察される。

- 一、「社会」、「社会主義」、「共産主義」、「人民」、「労働力」、「私有財産」、「反動」、「思想」、「唯物論」がずっと優位を占めている。
- 二、「革命」、「生産」、「生産力」、「理論」の使用が、徐々に上昇するよう見られる。この次は「資本」、「資本家」、「階級」、「労働」、「農民」、「地主」、「解放」、「思想」、「理論」、「唯物主義」である。
- 三、最初是用いられていなかったが、著しく上昇したマルクス術語として、「封建制度」、「権力」、「政権」がある。
- 四、「帝国主義」、「階級闘争」、「生産資料」、「生産方式」、「生産関係」、「生産率」、「政治経済学」、「貧・中・富農」の使用例がみられなかった。

以上の結果に基づき、次に『近世社会主義』と『近世社会主義評論』におけるマルクス術語の使用について、同じ方法によるパーセンテージで調べてみよう。

### 3.3 『近世社会主義』(日・中) & 『近世社会主義評論』(日・中) におけるマルクス術語の使用分析

字数制限のため、表を省略し、図だけで使用分析の内容を示す。

『近世社会主義評論』のほうがマルクス術語が多く使用されていることが分かる。さらに二つの原本と二つの訳本のパーセンテージから、以下のような特徴が明らかにされた。

- 一、マルクス術語が、年代の更新とともに、日本語→中国語のように、定着していく過程が観られる。また、定着のスタイルが、日本語原本1→日本語原本2→中国語訳本1→中国語訳本2…のように展開していくことがわかった。
- 二、W.Lippert (2003) が提出している「1903年以前」には、すでに存在しているマルクス術語は未だいくつか定着がみられない表現がある。例えば、「帝国主義」、「生産関係」などの術語である。
- 三、マルクス術語の生産も、日本語原本1→日本語原本2から、0→1のように観察される。

## 4. おわりに

2021年は中国共産党の設立から百年を迎える。ここ数年、中国近代思想研究において、言語接触の観点から、中国共産党の設立にあたってどのような思想的背景があり、寄与していったかという課題をめぐって、研究がすすめられている。社会言語学的的研究として、言語接触による翻訳の諸問題、思想の受容にあたっての異化、同化の問題など多岐にわたるが、本稿では翻訳データをもとに術語の形成の内実を検証するものである。その前に問題の関心、研究の意義について概略まとめておきたい。

いうまでもなく時代の過渡期にあつては、思想の潮流は一元的ではなく、複数の葛藤、融合から生まれる。その端緒となったのは、清末民国初における夥しい数の日本留学生の言語接触であった。梁啓超は日本の翻訳文献を通じて、中国に新世紀の学術文化を導入するにあたって、日本語教習の必要性、利点を主張したことはよく知られているが、やがて膨大な日本語文献の翻訳によってさまざまな術語が中国に逆輸入されることになった。無政府主義の文献もその大きな潮流の一つである。今後はこうした複数の観点から術語形成の流れを追う必要がある。

本稿は、『近世社会主義』、『近世社会主義評論』、『社会主義』、『社会主義神髄』の原本と中国語訳本を考察資料とし、コーパスに導入し、調査分析を行った。W.Lippert (2003) の理論を踏まえ、マルクス術語の形成を考察した。考察内容は、『近世社会主義』と『近世社会主義評論』に集中したが、今後は考察内容を拡大し、SPSS 統計や PYTHON などの手段もいれながら、さらに精密的な術語形成研究を展開していきたい。さらに民国初から五四期にかけての術語の受容形成にどのような変化が見られたかも課題にしたい。

注：本稿は中国教育部人文社科プロジェクト《基于多语语料库的马克思主义术语形成研究》(20YJ CZH142)

の研究成果の一部である。

## 参考文献

### 日本語文献

- [1] 石川禎浩、京都大学（2008）『現代中国の社会主義文化に関する基礎的研究』文部科学省科学研究費補助金研究成果報告書
- [2] 清水稔（2008）「近代中国とマルクス主義との出会いについて——とくに辛亥革命前後を中心として『文学部論集』第92号、佛教大学
- [3] 武仲弘明（1974）「中国近代における世界統一論としての大同思想（上・下）」『龍溪』季刊第10号、11・12合併号、龍溪書舎
- [4] 野村浩一（1971）『中国革命の思想』岩波書店
- [5] 狭間直樹（1976）『中国社会主義の黎明』岩波書店
- [6] 狭間直樹編（1999）『共同研究 梁啓超—西洋近代思想受容と明治日本』みすず書房
- [7] 劉孟洋・徐昊（2020）「近代中日間の社会主義術語の交流に関する一考察——趙必振訳《近世社会主義》（1903）を中心に」『或問 WAKUMON』159 No.37, pp.159-160.
- [8] 梁啓超著、岡本隆司、石川禎浩、高島航編訳（2020）『梁啓超文集』岩波文庫

### 中国語文献

- [1] 陳金龍「五四紀念與中國共產黨革命話語的建構」  
『湖北大学学报』哲学社会主義版：武漢，2019.2, pp5-8.
- [2] 郭沫若（1955）「在早稻田大學的演講」劉德有（1988）『隨郭沫若戰後訪日一回憶與記實』, pp345-354.
- [3] 李維武「五四運動與馬克思主義在中國早期傳播主體的变化」  
『湖北大学学报』哲学社会主義版：武漢，2019.2, pp1-4.
- [4] 孫宇雷（2019）「陳望道共產黨宣言翻譯源頭探析：基於漢日英德多語種平行語料庫的資料考察」『新世紀人文學論究』3, pp59-68.
- [5] 王東風等（2019）「五四運動前後馬克思主義在中國的翻譯與傳播」『中國翻譯』3, pp22-32.
- [6] 王天根「五四時期馬克思主義在中國早期傳播的歷史語境」  
『湖北大学学报』哲学社会主義版：武漢，2019.2, pp9-11.
- [7] 楊力「中國現代性觀念的起源：“五四”科學語境中的性話語分析」  
『四川大学学报』哲学社会主義版：成都，2019.6, pp28-37.

## 調査原本

- [1] 福井準造（1899）『近世社会主義』有斐閣
- [2] 久松義典（1900）『近世社会主義評論』文学同志会
- [3] 村井知至（1899）『社会主義』労働新聞社
- [4] 幸徳秋水（1903）『社会主義神髓』楽群編訳社
- [5] 趙必振（1902-1903）『近世社会主義』広智書局
- [6] 杜士珍（1903）『近世社会主義評論』新世紀学報

孫宇雷（中国・中山大学ポストドック研究員）  
田中寛（大東文化大学名誉教授）